



あけましておめでとうございます



江東区長

山崎孝明

東京オリンピック・パラリンピック
競技大会組織委員会会長

橋本聖子さん

— 新春対談 —

新型コロナワクチン3回目接種

高齢者の方は、1月23日(日)から前倒し接種開始(詳細は4面)

2022年を迎えるにあたり、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長の橋本聖子さんをお招きし、山崎区長と対談していただきました。今号では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の振り返りや、今後のレガシーの継承などのお話をお届けします(2・3面)。

対談の様子は、1/1(土・祝)~8(土)の「江東ワイドスクエア」(ケーブルテレビ11チャンネル)、区公式YouTubeチャンネルで放送・配信します※区政情報番組「江東ワイドスクエア」は、60分番組を1日4回(9:00~、12:00~、15:00~、19:00~)繰り返し放送しています。



区公式
YouTube
チャンネル

区民の皆様、あけましておめでとうございます。年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。昨年は新型コロナウイルス感染症が引き続き猛威を振るう中、区民の皆様におかれましては、長期間にわたる感染拡大防止にご協力いただき、深く感謝申し上げます。本区では、一刻と変化化する状況に合わせ、その都度適切な対策を迅速に実行してまいりました。本年は3回目のワクチン接種に万全を期するなど、一日も早く区民の皆様の日常を取り戻すことに引き続き全力で取り組んでまいります。

また、本区にとって長年の悲願である地下鉄8号線の延伸実現や東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシー継承、ゼロカーボンシティの取り組みなど、次世代に誇れる未来の江東区づくりを着実に推進するため、チーム江東一丸となり、区民の皆様と共に全力を尽くす決意を新たにしているところです。

本年も区民の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

区民の皆様、あけましておめでとうございます。年頭にあたり、江東区議会を代表して、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

本区には、地下鉄8号線延伸の早期事業化実現、東京2020オリンピック・パラリンピックレガシーの継承、防災対策、子育て・教育、高齢者福祉の充実など解決すべき課題が数多くあります。加えて、新型コロナウイルス感染症への対策として、3回目のワクチン接種等を着実に進めていくことが重要です。江東区議会は、行政に皆様の声届け、行政を監視するという議会としての役割を務める一方、必要な時には行政と綿密に連携するなど活発な議会活動を通じて、本区を取り巻く諸課題の解決に向けて全力で取り組んでまいります。

私は議長として、議会の有する権能が十分に発揮できるよう円滑な議会運営に尽くし、区民の皆様にとって、住みやすく魅力あふれる江東区を目指してまいります。

本年も皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



江東区議会議長
榎本 雄一

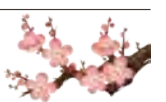


江東区長
山崎 孝明

年賀状などのあいさつ状(答礼のための自筆によるものを除く)は、公職選挙法により禁止されています。本紙をもってごあいさつとさせていただきます。



こうとう区報では、本文の文字に見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



橋本聖子さんを迎えて

山崎区長 新春対談



▲青海と有明を結ぶ夢の大橋に設置された聖火台



▲区立小学校等で制作した応援メッセージ入りのぼり旗



▲東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成果や今後のレガシーの継承について対談



橋本聖子さん

1964年北海道生まれ。スピードスケートでは4回冬季オリンピックに出場し、1992年のアルペールビルオリンピックでは日本人女性初の銅メダルを獲得したほか、自転車競技でも3回オリンピックに出場するなど、「五輪の申し子」、「二刀流アスリート」として大活躍。現役引退後は、国会議員として精力的に活動し、東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣など要職を歴任。昨年2月には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の会長に就任し、東京2020大会の開催に尽力した。

みんなできりあげた
東京2020大会

司会 本日は、オリンピックの銅メダリストであり、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長の橋本聖子さんをお呼びしました。よろしくお願いたします。
橋本聖子会長 以下、橋本 よろしくお願いたします。
司会 早速ですが、今回の東京2020大会、どのように振り返られますか。
橋本 あつとつ間に4か月が

経ち、江東区の皆さん、そして東京都の皆さんに、大会のレガシーをもっとと素晴らしいものに作り上げて、そしてどのように継承していただくか、そして発展させていくかというのを考える大事な一年を迎えたというふうな思っています。
司会 区長は、東京大会をどのように振り返りますか。
区長 東京で開かれた2回目のオリンピック・パラリンピックをどうやって将来の日本、東京都、江東区のために活かしていくかが大事なので、これからの



▲ブラインドサッカーを体験することもたち

司会 当初思い描いていた大会との関わり方とは違っていましたよ。
区長 学校連携観戦を行うか直前まで迷いに迷って、校長先生や教育委員会と議論し続けました。最後は諦めざるを得ないというところで、悔しい思いで決断しました。江東区は競技場が多いので、約3万5,000人のこともたちが観戦する予定でした。競技場の目の前にある学校に通う子どもたちが、競技場に行って観戦できなかったことは大変辛く、悔しく、悲しいことでした。しかし、子どもたちは

世界に示した、東京モデル。
司会 新型コロナウイルスの影響で1年の延期、無観客開催など歴史上経験したことのない大

大会に向け、花いっぱい運動や各国旗ののぼり旗を作ったり、国歌や国歌などを勉強しました。これはレガシーとして、今後いろいろな形で成果が出てくると考えています。
司会 区長をはじめ、多くの皆さんがさまざまな準備をされたと思いますが、そういった自治体やその力の強さ、どのようになっているかを感じていますか。
橋本 自治体の皆さん、ボランティアの皆さん、そして子どもたちの協力があった、この大会をやり遂げることができました。本当に感謝しています。特に、江東区は競技会場が一番多かった場所でもあり、レガシーが詰まっていると思います。思いに残っているのはアサガオ(※)ですね。子どもたちが選手や監督などすべての方をま

共生社会の実現を加速させた大会に
司会 ダイバーシティや共生社会といった大会のテーマについても広く浸透したように感じています。今大会の成果について、橋本会長はどのように感じていますか。
橋本 日本や東京都のすばらしさを世界に発信することができたのではないかと感じてます。たくさんの方が

オリンピック・パラリンピックで選手の活躍をテレビで見たいと思ってきました。一つ一つの大きな成功への鍵となったと思っています。また、子どもたちがパラアスリートと触れ合う教育を自治体が長年にわたってしてきたことや、ユニバーサルデザインのまちづくりを徹底してやってきた積み重ねが、東京大会でさらに加速した成果をあげたと思えます。これで終わらずに、どのように継承していくかということが非常に重要だと思っています。

スポーツを通じ、心も体も健康な社会を次世代へ
司会 今大会を今後どのようにつなげていくか、レガシーの継承についてはどのようにお考えですか。
橋本 自国開催で得られたもの、はたくさんありますが、今回その中で選手がこまごまやってく文化あるいは持続可能性や、環境への配慮など多くの新しい取り組みがあります。それを一つ一つ掘り起こしながら東京モデルという形でレガシーとして継承していきたいと考えています。
司会 区長は今大会をどのようにつなげていきたいと考えていますか。
区長 施設は残ったけれどもそれが我々の大きな責任です。区では健康チャレンジという、ウォーキングなどでポイントを集めるイベントの参加者を募集し、定員1,000人のところ、3,000人以上の申し込みがありました。みんなが体を動かして健康維持しようということに、オリンピック・パラリンピックによって気がついた部分もあると思います。これだけの大会を開いていただけたので、建物が残っただけではなく、それを活用

すること、普段の生活の中でスポーツを取り入れ健康について考えるなど、すべての区民にそういう意識を持ってもらいたいと思います。そのことによって健康寿命も延び、健康寿命が延びることで医療費が下がれば国の財政も助かります。さまざまな意味で、区民の皆さんが健康を意識して、そして元気に毎日生活ができるようにしていくのはオリンピック・パラリンピックのレガシーにつながるのだと思っています。
橋本 今のお話のように、健康寿命延伸のために大いにオリンピック・パラリンピックの施設を使っていたり政策、これをぜひお願いしたいと思います。
区長 そうですね。子どもたちは、アクアティクスセンターなど施設の見学会に行っているのと、いつかここで泳いでみたいと思ってくれたら嬉しいです。
橋本 そうですね。アスリートたちが記録を出した場所で、泳ぎたいと思いますよ。ぜひ実現してほしいと思います。
区長 区の水泳大会を6年前から、水泳のメッカと言われていた辰巳国際水泳場で行っています。子どもたちはそこを目指して頑張っていて、そういう施設で泳げたことはすごい感動だと思います。子どもたちにそういうチャンスを与えることが我々大人の責任だと思っています。
司会 橋本会長からご覧になって、今大会が国民の健康への意識やスポーツへの意識を高めたという認識はございますか。
橋本 特にパラリンピックのアスリートの頑張りに、多くの方から感動したの声を寄せていただきました。あれだけのことが

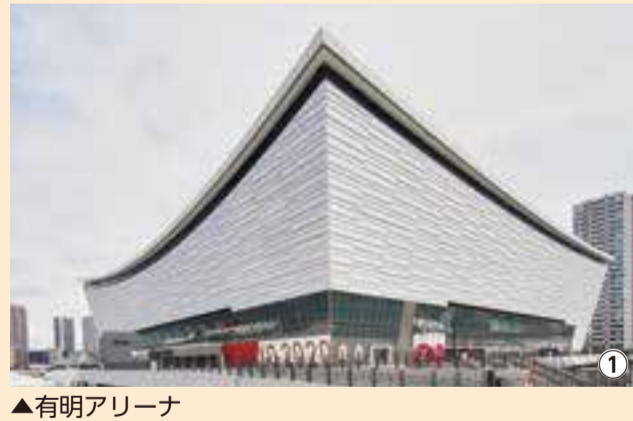
できるのであれば、自分も何

新たなスポーツの普及
司会 江東区出身の選手も、江東区で活躍してくれましたね。
区長 オリンピックが始まってすぐ、堀米選手がスケートボードで金メダルを取りました。パドリングでは、カヌーで瀬立モニカ選手が7位入賞を果たしましたし、選手たちはみんな頑張ってくれました。
橋本 今区長がおっしゃったスケートボード、今若者に大人気のスポーツになっていて、堀米選手が区長へ表敬訪問をしたときのお話を聞いたのですが、江東区にスケートボードパークを作ることにしたんですね。これは素晴らしいですね。東京大会のレガシーですね。
区長 今年の秋にはオープンしたいと思っています。
橋本 そうですか。それは皆さん喜ぶですね。
区長 ただ、周囲の人の迷惑にならないようにしてもらいたいという思いもあります。スケートボード場を作るにあたって、マナーやルールについてみんな

考えていきたいと思います。

会になったと思いますが、どのような苦労がありましたか。
橋本 組織委員会の会長としてすべてがコロナ対策だったと思えます。国民の皆さんの7、8割に近い方が中止すべき、あるいは再延期すべきという中で、非常に苦しい決断を迫られていた時期がありました。プレイングを3回改訂し、世界の関係者に理解をいただいたことができ、コロナを正しく恐れ、見える化していくということによってご理解いただけたと思います。全体で100万回を超えるスクリーニング検査をし、全体で0.03%の感染率を抑えこむことができました。国民の皆さんを含めワンチームになってやり遂げることができたので、世界から非常に高い評価をいただき、これも一つの東京モデル、レガシーだと思っています。
司会 橋本会長は過去に選手としても参加されていましたが、アスリートの立場から、コロナ禍においてアスリートの難しさはどのように感じていましたか。
橋本 自分自身が競技に集中すると同時に、コロナへの配慮にも集中しなければいけないとい

う選手の気遣いというのは、想像を絶するほど大変だったのではないかと思います。しかし、選手たちは「しっかりとルールを守りさえすれば、絶対に大丈夫なんだ」という思いはあったように感じます。
司会 江東区では、新型コロナウイルス対策としてはどのようなことをされてきましたか。
区長 区では1日200人もの感染者がでる日もあり、保健所を先頭にみんな頑張りましたが、それでも入院ができない方には自宅療養をお願いし、ご迷惑をおかけしました。現在は第6波に備えて準備を進めています。
司会 橋本会長ありがとうございました。



▲有明アリーナ



▲有明アーバンスポーツパーク

